

3年連続ベースアップ凍結 もう我慢の限界です 会社は従業員の努力に応えよ！

2004 年総合労働条件改善闘争が始まりました。

ベースアップは要求せず、

賃金体系維持をはかる」

これが労働組合の今年の要求案です。

2年連続の一時金の数十％に及ぶ大幅なカット、近年のベースアップの凍結で私たちの年収は大幅に減少しました。

支出の方は健康保険料のアップや教育費・住宅費が重い負担になって来ています。

一方、会社は相次いで行ったリストラや高い目標設定で従業員の血の滲むような努力によって V 字回復を果たし、2000億円も内部留保を積み増し、連結営業利益 1800億円を見込んでいます。

（「連結内部留保」とは、有価証券報告書から、「連結剰余金」「資本準備金」「退職給与積立金」「長期負債引当金」の四つの合計額としています。）

この間の人減らしでトラブル対応が増え、精神的緊張が四六時中強いられることが頻繁にあり第一線の SE・SMの肉体的・精神的犠牲の上に成し遂げた成果です。

労働組合は期待に応え 攻めの闘いを

数年来の人員削減・賃金制度の改悪・年金・福利厚生の後退等で組合員は怒りと不安でいっぱいです。

企業業績が大きく改善している今年こそ、このところ続いた守りの春闘から攻めに転ずるチャンスです。

労働組合は組合員の切実な期待に応えなければ、その存在価値が問われます。

NEC業績はV字回復

大幅賃上げで家計も回復を

会社の「逆提案」を許すな！



内部留保を増やした企業の順位

順位	企業名	連結内部留保の増加
1	日立製作所	9312億円
2	トヨタ自動車	5805
3	日産自動車	4260
4	三菱商事	3371
5	ソニー	3055
6	東芝	2602
7	ダイエー	2517
8	東京電力	2146
9	武田薬品工業	2139
10	NEC	2134億円

資料：全労連・労働総研編
「2004年国民春闘白書」より

真の男女平等社会参画社会の実現のために 労働時間の短縮は必須の条件

NEC社員OBの平均寿命68歳とされています。

自分の『人生の時間』を会社から奪われている『現状では働き方を見直さない限り男女平等参画社会』の実現はあり得ません。

昨年10月22日、厚生労働省は『労働基準法第36条1項の協定で定める労働時間の延長の限度等に関する基準の一部改定』平成16年4月1日から適用する』とする通達を出し、36条にあった『特別の事情』の運用を、厳格に運用するよう求め、『過労死』を生み出すような長時間残業を規制しています。

また、電機連合第90回中央委員会やその上部団体である連合でも労働時間短縮への取り組みが始まっています。

わたしたちの職場でも労働時間の正確な把握の為、タイムス等で、会社への出退勤の時間管理を厳格に行うよう強く求めます。

最近テレビでも放送されたNECの『健康リスクマネジメント強化』について話題になったと思います。

内容は健康管理センターで6点の管理の内4点以上の方は残業中止命令が出るというもの。

1、肥満 2、高血圧 3、高脂血病 4、糖尿病 5、喫煙 6、年齢

しっかり励行して定年後の年金をバッチリ受け取り、人生をエンジョイしましょう。

労働組合は本来の役割を果たすべきだ

最近職場から労働組合の姿が見えなくなって来ています。職場会も久しう行われていません。労働組合法第2条では『労働組合』とは、労働者が主体となって自主的に労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ることを主たる目的として組織する団体又はその連合団体をいう。』とあります。

最近のNEC労組をみると労働組合からの要求は示さず、会社からの要求を丸飲みしているのみ、という感を受けますが、みなさんはどう思われますか。その結果が際限なく繰り返されるリストラと労働条件切り下げです。これで労働組合と言えるでしょうか。

職場会をきちんと行い、組合員一人一人の要求をくみ取り、強い団結力で、会社と対等に団体交渉し、組合員の要求を実現する。この労働組合としての本来の役割をいまこそ果たすべきです。

労組議案書にも書かれているとおり、積極的に組合員の声を吸い上げる為に、以前行っていた昼食懇談会等実施して今『生活改善闘争』を盛り上げて行きましょう。

電機懇・要求アンケート募集中

電機労働者懇談会では、2004年要求アンケートに取り組んでいます。

職場の生の声を労働条件向上の運動に生かす。

あなたも、是非ご参加ください。

要求アンケートは、ELICNECホームページから回答することができます。URL：<http://www.eva.hi-ho.ne.jp/elicnec/>からどうぞ。

アンケート結果はELICNECホームページで発表いたします。

